

第2回福井県児童科学館施設改善検討委員会 議事録

こども未来課

1 日 時 令和8年3月18日(水) 10時00分～11時15分

2 場 所 福井県児童科学館2階コミュニティルーム

3 出席者 別紙のとおり。

4 議 題

- (1) 第1回委員会の結果概要
- (2) 基本的な考え方(案)について
- (3) 今後の予定等

5 配布資料 別紙のとおり。

6 議事概要

○ 議題説明

- (1) 第1回委員会の結果概要
県 こども未来課(以下、「事務局」という。)より説明
- (2) 基本的な考え方(案)について
事務局より説明

(委員)

- ・基本的な考え方への異論はない。ただ、他県の事例を見ると、プラネタリウムで5億円が必要。全体的な予算規模との関係でプラネタリウムの改修でほとんど使ってしまったといったことにならないよう留意が必要。

(事務局)

- ・全体の予算規模はこの時点で申し上げられることはないが、全体のバランスを見てプラネタリウム以外の施設が古いままだったりすると、どこにお金を使ったのかといった話になってしまうので、基本設計等で全体のバランスを見て決めていきたい。

(委員長)

- ・現時点でプラネタリウムにかかる金額というのは変更が難しそうか。

(事務局)

- ・プラネタリウムはご指摘のとおり、他県の事例を見ると5、6億円はかかってくると思われる。そのうえで基本的な考え方や遊具の大規模修繕などは毎年度の予算要求ということになる。必要な金額を確保できるよう案を提示していきたい。

(委員)

- ・前回の意見がうまくまとまっていて良い。恐竜と宇宙というコンセプトは素晴らしい。低学年が遊びやすく、大人もゆっくりできる場所として期待している。

(委員)

- ・内容はすばらしい。予算の確保が課題。
- ・インクルーシブ遊具について部分的に改修することになると思うが、動線計画をしっかり作っていく必要がある。インクルーシブ遊具を導入している公園や施設は多いが、本当に障がいのある方がどれだけ使えているかの検証はあまり進んでいない。
- ・個人的な印象として、インクルーシブ遊具を導入しても、実際に障がいを持った方が利用しているケースは中々ない。動線の計画を屋内外しっかり行った上で、すべてを障がいのある方に利用してもらうのが難しければ、ある程度対象を絞り、その中で充実したサービスを提供できるよう計画していくことが重要。
- ・全天候型は音が響く。音に敏感な子が増えている。「センサリーフレンドリーマップ」という音が響かない道筋を示しているマップを導入している動物園などもあるので、動線計画の中で組み込んでいくことも重要。カームダウンスペースにつなげられるとよい。
- ・児童厚生員の研修は非常に重要。全県的にネットワーク化する中で、館が中心となって人材の質の向上を図るという考え方は重要。
- ・現状、児童厚生員の方は大半が女性で非正規の方、低年齢層を対象とした人が多い。全県で考えるのであれば、高年齢層の子に対応できる研修や、男性の厚生員を育てていくことを意識してやってほしい。
- ・プレイワーカーの専門研修は、遊びだけでなく、保護者をつなげる、関係性を作る、コミュニケーションのマネジメントも学ぶ。過保護な保護者の目線の子から逸らす技術も学んでいる。遊びを中心にしながら、子育ての秘訣を教えるようなテクニックもある。そういった研修を充実していただけるとよい。

(委員長)

- ・エンゼルランドふくいを中心となって全域的に実施できる人材育成の場といったところで非常に面白い事例になると思う。基本的な考え方の3番目に含めてはどうかと思うがいかがか。

(事務局)

- ・ 3番目のところに児童厚生員の研修といったところで記載させていただいているが、それ以外のこどもに関わる仕事も含めた幅広く研修の場に、という意見と受け止めている。児童クラブの支援員の研修などもやっている。毎年の研修で親との関わり方、男性の確保など新しい要素を入れながら、場所をこちらで実施していければと思う。
- ・ 動線については、全てをインクルーシブ化できるかというところではなく、ご意見のとおり、実際に障がいを持った方に使われていない場合もあると聞いている。動線を見せしていくという視点は重要。今後考えていきたい。

(委員)

- ・ こどもの権利をしっかり教えることが、外遊びの誘発や学習環境の整備に相関があることが分かってきている。根底にある「こどもの権利」を研修の中で厚生員に理解してもらうことはおさえていただきたい。施設の中でこども基本法の条文など、親子が見る機会が増えるとよいと思う。

(委員長)

- ・ 今日の意見も踏まえて、7ページ（基本的な考え方）の内容を具体的にやるのであればといったページがもう1枚あるとよい。意見確認の際に資料追加をお願いしたい。

(委員)

- ・ メリハリのある考え方でよいと思う。気づきとして運営面でネットワークを広げていくという発想は素晴らしいが、ただ広げるだけでなく、ネットワークの密度、どの相手と重点的にやっていくかといった考えが必要となってくる。
- ・ 密度を上げていく中で意識するとよい点として、時間軸を意識したネットワークづくり。館を利用するのは園児や小学生であるが、中高になると関係が希薄になる。
- ・ 関わり方は同じでなくてもよくて、段々と単なる利用者から卒業生としての関わり方が出てくる。子供の成長を見守る場だけでなく、まちづくりに関わる施設、まちづくりの担い手育成に関わるネットワーク構築を意識すると良いと思う。

(事務局)

- ・ 年齢によって関わり方は変わらしている。高学年、中高生用のプログラムを入れるのも1案だが、部活動による発表の場や、大学のゼミ生との共同ワークショップなど、大学研究とのマッチングという話もあると思う。
- ・ 社会人、企業人になれば、CSRといった社会貢献活動とのマッチング、地域との連携の場という方法もあろうかと思う。今も力を入れているが、ハード面と併せて充実させていきたい。

(委員)

- ・大枠はすごく良い案だと思う。少し気になる点として1つは予算。一つ参考になる例として、神戸市の科学館がリニューアルをしており、1期、2期、3期でリニューアルを終えるような計画で進めている。そういった方法もあると思う。
- ・プラネタリウムは席数を減らしてゆとりを持たせるのがトレンドだが、教育的なコンテンツ、学習利用をする際にどれだけの席数が必要かを念頭に置いて多目的な利用を考えるべき。
- ・気になるのは宇宙と恐竜のところ。最新の科学というのは、5年たつと最新ではなくなる難しさがある。最新と言うとすぐリニューアルをしていかなければいけなくなる。どういう科学を見せたいか、軸を決めてからジャンルを絞るべき。
- ・宇宙は館の強みであるが、恐竜は勝山恐竜博物館が推しているの、すみ分けが大事になる。館にしかできないコンテンツを考えるべき。
- ・その中で、展示にした方がよいのか、活動にした方がよいのかといった軸もある。最新のものは活動にして、人がうまく介入して合わせていくことで、最新を追いながらベースの部分は展示で補っていかうといった科学館もある。展示を見せて終わりだと、展示にすごくパワーがいる、展示がすべてを賄わないといけなくなる。
- ・展示を更新すると、マンパワーが必要になる。働く人のモチベーションや、必要人数も考えていくことが、継続して運営していくために重要。
- ・最後に、ステップの話。ここは児童科学館なので、生まれてから小学生、中高生、親になって、ステップの中での使われ方が変わってくる。大きなボリュームゾーンがあってこの人たちを沢山呼んでこようというよりは、それぞれの育ちのステップに、館がどうやって使われたいかを具体的に考えた軸を決めて改修していくと良い。ステップに必要な要素を具体的にしていくとこの部分は他の施設で、この部分は館でといった切り分けもできるようになる。
- ・高校生にも伝える側になってもらう、一時的なスタッフとして関わってもらう方法を導入している県もある。

(委員長)

- ・中長期の整備計画を県民に見せていくことも重要。効率的に使ってもらう方法は基本計画の資料に明記してほしい。

(委員)

- ・宮城県の児童館「らいつ」は、こども運営委員会を設置していて、中高生を中心にこども運営員を作って、本当の運営委員にも意見を投げかけていけるような組織や意見を吸い上げられる仕組みをつくっている。自分たちがこの館を作ってきたんだという意識を持たせる形で館の運営委員のようにして関わってってもらえるような組織運営ができる

と良いのではないか。

- ・壊れた部分を自分たちで直すとか、素朴な意見が多いようだが、コーディネーターをつけて、次世代を育てる視点で運営していくのも良いと思う。
- ・「最新」というのは遊具も同じ。ベースになる遊具は必要。こどもの村の遊具を直す時に、既成の目的が明確すぎるもの、例えばスペースシャトルの形をしている遊具などは、遊び方が画一的になり、後々使いにくくなる。
- ・ベースとなるものがあり、そこにプレイリーダーを入れて、手作り遊具で最新のものをみんなで追加していくような運営もあると思う。一人プレイリーダーを入れることで、持続可能で、低予算、参加型でといった点がカバーできる。

(委員長)

- ・こども運営委員会については他県の例もあり、中高生等の施設に関する関わり方を促す仕組みは非常に面白いと思うのでぜひ検討いただきたい。
- ・組織を作って終わりではなく、先ほどの例のような能動的に活動ができる仕組みもあわせて実現できる内容になるかと思うので、案として、資料中に記述を追記してほしい。
- ・遊具も最新のものというのは時代を感じる良さもあるが、活動を促すための遊具の在り方を遊具メーカーと共同研究できるような場があるとよい。
- ・3点コメントさせていただく。1つ目は、大学との連携について、展示内容やブース設置など、大学と一緒に考えてほしい。福井工業大学では、宇宙×AIといった形で日本唯一の衛星拠点があわらキャンパスにある。月の周回の衛星データをとれるようなアンテナがある。大学の公開講座といった形や月1回の講座といった形で、県立大学や福井大学とも連携して実施するなど、児童科学館が大学の研究と関わることができる場所となれば、最新の科学に触れる機会づくりと直結する。ぜひ文言として、基本的な考え方の資料に明記してほしい。
- ・2点目は誘導サインの見直し。センサーフレンドリーマップをホームページに掲載するだけでなく、館内に設置して見えるようにする。全体のサインも後から貼り直したものが多く、誘導サインはそこまで費用もかからないと思うのと、動線に関しては熟知していると思うので、安心して遊べるという観点から加えることを検討してほしい。
- ・3点目は町との関わりが薄いと思われる。児童科学館へのアクセスが車中心となっている現状を踏まえ、交通アクセス強化を考えてほしい。こども達が徒歩で来られる、中高生だと自分たちで交通手段を選択してアクセスができると思うので、まちづくりという視点から、駅との接続などを一緒に考えていきたい。

(事務局)

- ・誘導サインなど大事な視点だと思うので、今後ご相談させていただきながら決めていきたい。

(委員)

- ・プラネタリウムの質問をなぜしたかという、最新のものも必ず陳腐化するのでそこに5億、6億円を投資する必要があるれば別であるが、そのあたりの在り方をよく考えるべき。ベースを何にして、プラスアルファで何をしていくのか。また、何期かに分けてやっていく、ゾーンごとにうまく改修していくといったやり方もある。工夫の余地はあると思う。

(3) 今後の予定等

事務局より説明

(委員)

- ・基本計画、基本設計のスケジュールを聞くと、30周年に向けてと考えると非常に厳しいのではないかと。事業者の意見をそのままなら問題ないと思うが、より良いものにすべき、という有識者の意見を丁寧に反映していくということであれば、当然期間が延びていくことになると思う。基本計画の策定時には慎重な検討をお願いしたい。

(事務局)

- ・現状では、令和8年度に基本計画と基本設計、令和9年度に実施設計、令和10～11年の2年間で施工するスケジュールを想定しているが、ご指摘のとおり、物価や人件費の高騰もあり施工管理が難しい状況であることは認識している。
- ・今回、何段階かに分けて改修していく方法もあるとのご助言を頂いたので、30周年という節目は念頭に置きつつ、その前後でリニューアル工事を完了させていく方法もあると考えている。基本計画の策定にあたり、現実的な工期設定に努めていきたい。
- ・何段階かに分ける場合は、対外的な打ち出し方が重要になると思うし、前回の意見にもあったとおり、休館の時期を予め想定して施工していくことも重要。いずれにせよ、基本計画を疎かにするつもりはなく、有識者や利用者の意見を丁寧に伺いながら策定していく方針であるので、引き続きのご助力をお願いしたい。

(委員長)

- ・各意見は検討内容にしっかり反映していただき、公表に向けた内容は、委員長に一任ということをお願いしたい。